

解答用紙

[illegible][illegible]

氏名

- 線部アゝウの漢字の読みをひらがなで書き、—線部エゝカのカタカナを漢字で書きなさい。
- 彼を会長に推す。 放課後は専ら練習に励む。
- 富山でクらす。 祖父はキンペンな人だ。
- 哀愁を帯びた音色が聞こえる。
- 国連にカメイしている国を調べる。

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(一部表記を改めたところ、一部省略したところがある。)

最近では普通の読書はもちろん、詩歌なども黙読する人が多く、音の持つ感性を身体で味わう機会が少なくなっています。

かつて日本では、先生が言ったことを復唱することが学習の基本でした。

寺子屋では、師が「吾十有五にして」と言ったら子どもたち(寺子)が「吾十有五にして」と復唱する。続けて師が「**I**」と言うと、また子どもたちが「**I**」と復唱する。

こうした学習方法は単に言葉を繰り返すだけのものではありません。先生がピシツと背筋を伸ばし孔子の言葉を述べる、これは孔子の精神の体現に他ならないからです。復唱する子どもたちは、先生の言葉だけを真似するわけではありません。同時に姿勢や発声も先生の真似をします。つまり、寺子屋で行なわれていた「音読の復唱」という学習方法は、孔子の精神性を身体性を通じて子どもたちに乗り移らせていたのです。

この教育方法には想像以上の高い学習効果があります。

杉本鉦子さんの『武士の娘』という著書の中に、次のようなエピソードがあります。

杉本さんの家には、『論語』を教えてくれる女性の先生が来ていました。ある日のことです。自分がちよつと姿勢を崩したら、先生は「今日はこれでやめにしましょう」と言って帰ってしまった。先生にそう言われて、彼女は非常に恥ずかしく、情けない思いになり、一人で部屋に

戻って泣いたというのです。

なぜ先生は帰ってしまったのか、そしてなぜ彼女がそれを泣くほど恥じたのかおわかりでしょうか。

実は先生は、彼女が姿勢を崩したのを見て、学ぶ準備ができていないということだと判断したのです。そして、杉本さんもそれがわかったので自らを恥じたのです。

著者の杉本さんは一八七三年(明治六年)生まれ。旧越後長岡藩の家老の家に生まれたため、武士の娘として厳しい教育を受けていました。だからこそ、自分の何がいけなかったのか、すぐに悟ることができたのだと思います。さすが武士の娘です。

II、かつての日本では、整った身体に言葉を通して精神を伝授するという、「身体と言葉と精神」の三つが一体化した教育が行なわれていました。

なぜ日本ではこのような教育方法が行なわれていたのでしょうか。一つには、東洋の特性ということが言えると思います。東洋には、体を整えることによって精神を整える」という伝統が、インド、中国、日本と綿々と続いています。

西洋にも身体と精神を結びつける思想がないわけではないのですが、東洋ほど色濃いものはありません。むしろ西洋においては、知的に高度であるということと、姿勢を整えて礼儀正しくするということは直結し

ていないと言えます。

古代ギリシャの哲学者プラトン(前四二七～前三四七)の『饗宴』などを読むと、当時のギリシャ人は、寝つ転がったり、酒を飲んだり、あるいはお風呂に入ったりと、自由にリラックスした状態で、非常に高度で知的な思考をし、議論をしていたことがわかります。

西洋では、最も大切なのは議論の内容に集中することなので、相手が頼杖をついていようが何をしていようが、姿勢で「君、それは自分に対して失礼じゃないか」と言う人はいないのです。しかし、礼節を重んじる東洋においては、姿勢を整えて臨むことが非常に重要なことなのです。これは、東洋と西洋の大きな違いと言えます。

【齋藤孝『日本人は何を考えてきたのか』より】

1 黙読 と構成が同じ熟語を、次のアゝエから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 人造 イ 決心 ウ 博愛 エ 永遠

2 **I** には次の漢文の一部が入ります。空欄に入る言葉を書き下し文で答えなさい。

吾十有五志学

3 ……線部アゝエから、活用する語を一つ選び、記号で答えなさい。

4 **II** に入る言葉として最も適切なものを、次のアゝエから選び、記号で答えなさい。

ア さて イ しかし ウ そのうえ エ このように

5 「身体と言葉と精神」の三つが一体化した教育 とありますが、寺子屋では「三つが一体化した教育」として具体的にどのようなことが行なわれていましたか。本文中の言葉を使って、五十字以内で説明しなさい。

6 綿々 との意味として最も適切なものを、次のアゝエから選び、記号で答えなさい。

ア 絶えない様子 イ 慌てる様子
ウ 細やかな様子 エ 広がる様子

7 の段落の文章全体における役割として最も適切なものを、次のアゝエから選び、記号で答えなさい。

ア 導入 イ 例示 ウ 意見 エ 結論

8 東洋と西洋の大きな違い とありますが、筆者は西洋と比べて東洋はどうだと言っていますか。次の文に続くようにし、「身体と精神」という言葉を使って説明しなさい。

西洋では、姿勢のことは気にせず、議論の内容に集中することが大切なのに対して、

9 筆者は、本文の冒頭で文章や詩歌を読む際の「音の持つ感性を身体で味わう機会」について述べています。これについて、あなたは、どのような活動で「音の持つ感性を身体で味わう」ことができると思えますか。具体的な活動例と、それによって味わえることを書きなさい。

三 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(一部表記を改めたところがある。)

明治三十九年、十五歳の八郎は、五左衛門とむめ(夫婦)が経営するめがね工場^{めがね}で働いている。工場では、親方を中心とする帳場(班)に分かれてめがね枠作り^{めがね}を始めることになり、指導者である豊島^{とよしま}から三人の親方が発表された。

「豊島さんは、なんで八郎さんだけ親方にしなかったんやろか。」^①一期生は四人やのに……」

さつきからむめが険しい表情をしている意味がわかり、五左衛門は改めて八郎が立つほうに目をやった。車地^{クルマヂ}の持ち手に手を掛け、八郎は虚ろな目で煤^{すす}で汚れた壁を見つめていた。

「あ、八郎さん」

むめが小さく声を上げたのと同時に、八郎が作業場を出て行く。音もなく静かにその場を立ち去ったので、五左衛門とむめ以外の誰も気づいていない。豊島も職人たちも、新たな体制への興奮で、輪の外にいる者など見えてはいなかった。

八郎の後を追って、むめがすぐさま作業場を出る。五左衛門はふたりの様子を目で追ってはいたが、その場から動くことはしないでした。八郎の気持ちはわかる。それを追うむめの思いやりも間違いいではない。だが豊島の決めたことに、口を余地などないことは誰もが知る

五左衛門は徒弟たちの前で誇らしそうに胸を張る増永三之助の姿に目をやる。生野出身の三之助は、八郎と同時に工場にやってきた。年齢も同じである。小作農の三男である三之助は、特別に手先が器用というわけではなかったが体格がよく体も丈夫で、尋常小学校に通っていた時には体育が得意教科だったという。「帽子取り、騎馬戦では人に負けたことはありません」と初めて会った日に無邪気に話していたのをよく憶

えている。こんな無骨な男が細かい作業をこなせるのかと初めは心配していたが、三之助には他の職人がひと息ついている間にも作業の手を止めない粘り強さがあった。

一方で「小学校では図画が好きだった」という八郎は、全体的に線の細さが目につく。普段は穏やかな性質なのに、めがね枠作りに関しては元来の神経質な性格が現れ、些細なところで癪^{さか}癪^{さか}を起すのだ。少しでも気に入らないところがあれば、鉄を手に製品をひねり潰してしまう。朴^{はく}の木を焼いて作った炭——朴炭^{はくたん}での磨き作業にも人一倍時間をかけてしまいい作業速度が遅いのだと豊島が嘆いていたことがある。

八郎は、三之助を親方にした帳場に振り分けられていた。おそらく豊島は、年が同じで仲の良いふたりが力を合わせて帳場を率いていくように配慮したつもりなのだろうが、八郎にしてみれば三之助の下に位置づけられたと思ったことだろう。どうしたものか……。しばらくその場で考えていた五左衛門は、やはり八郎とむめのことが気になり、足音を立てずに作業場の引き戸を開ける。

「深沓を履いて工場の前に出ると、身を切るような朝の空気が全身を包んだ。」裏の雑木の影が雪の積もった田んぼの半分を覆っていたが、朝日が射す部分は金色に輝いて見える。白一色の景色の中に八郎とむめの姿を探して、五左衛門は辺りを見渡した。工場の中は熱気で汗が出るくらいなのに、屋外に数分立つだけで体の芯まで冷えてくる。見れば、田畑も畦道も、今朝はおしよりんになっている。いつもより寒いはずだ。

「ここまできてなに言ってるん」^④

ふたりの姿を探して工場の周りを歩いていると、裏手の雑木林のほうから声が聞こえてきた。氷になった雪を踏みしめ進んだ先に、むめと八

郎の姿が見える。むめが八郎の背中に手をかけ、一方的に言葉をかけている。

「ここまで一年半、八郎さんが死ぬ思いで頑張ってきたの、わたしはよく知ってます。工場に寄るたびに、職人さんらの働く姿を眺めてたんです。」^⑤八郎さんの手は、絶対にするせえへん手やとわたしは感心してました。

五左衛門は足を止め、一問ほど離れたところからふたりのやりとりを見つめていた。むめは五左衛門に気づいて頭を下げたけれど、八郎は杉の木に両手をつき俯^{うつむ}いていた。

「ここでやめてしまうのはもったいない」

むめの声が優しい。八郎は泣いているのだろうか、下を向いたまま烈しく頭を振っていた。

「いま親方になれなかったくらい、わたしからすればなんでもないことやわ。工場をやめろって言われたわけでもないんやし」

「……やめると言われたのと同じですわ。末吉さん、五郎吉さん、三之助が親方になれて、おれがなれんということば、そういうことなんや」

「そんなこと誰が言うたん」

「いや、そういうことです。豊島さんはおれを落第させたんや。おれはほんまにがんばって……必死でここまでやってきたのに」

八郎は肩を上下させながら囁^{ささや}咽^もしていた。泣き崩れるその体を、むめが両方の手で必死に支えている。喉に流れこんだ涙にむせたのか、八郎が咳きこみ、その背中をむめが擦った。枝に積もった雪が落ちてくる以外なんの音もない場所で、ふたりの声だけが聞こえてくる。むめの手が、八郎の一年半という歳月を撫^なでていた。

【藤岡陽子『おしよりん』より】

- 注1 車地
注2 癪癪
注3 深沓
注4 おしよりん
注5 鳴咽
- 合金を伸ばす機械
発作的に興奮して怒りを表すこと
わら製の長靴
福井の方言で、寒い冬の朝、深い雪の表面が凍った状態
声をつまらせて泣くこと

1 一期生は四人 とありますが、八郎を除く他の三人の名前を本文中から抜き出しなさい。

2 八郎は虚ろな目で煤で汚れた壁を見つめていた とありますが、このときの八郎の状態を示す四字熟語として最も適切なものを、次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 傍若無人 イ 優柔不断 ウ 茫然自失 エ 千載一遇

3 輪の外にいる者など見えてはいなかった とありますが、これは豊島や職人たちのどのような様子を表していますか。「輪の外にいる者」の心情と行動に触れて三十文字以内で説明しなさい。

4 に入る最も適切な言葉を、次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 挟む イ 結ぶ ウ 割る エ 濁す

5 「……線部[a]・[b]の描写は、それぞれ何かを象徴したり暗示したりしていると考えることができます。どちらか一つ選んで記号を書き、その象徴や暗示の内容を説明しなさい。

6 ここまできてなに言ってるん とありますが、本文から判断して八郎はどのようなことを言ったと考えられますか。簡潔に答えなさい。

7 八郎さんの手は、絶対にするせえへん手や とありますが、八郎の「するをしない職人」としての姿を、本文中の言葉を使って二つ書きなさい。

8 むめの手が、八郎の一年半という歳月を撫でていた とありますが、^⑥「どういふことを表しているか説明しなさい。」

四 次の古文を読んで、あとの問いに答えなさい。(一部表記を改めたところがある。本文の左には部分的に意味を記してある。)

五月ついたちころ、つまなき花橘の、いと白く散りたるをながめ

て、

【A】 時ならずふる雪かこそながめまし花たちばなの薫らざりせば
季節はすれに 眺めたことどうした 薫っていないから

足柄といひし山の麓に、暗がりわたりたりし木のやうに、茂れる所な
暗く茂り続いていた (我が家は)

れば、十月ばかりの紅葉、四方の山辺よりもけにいみじくおもしろく、
一段とすべれて

【B】 錦をひけるやうなるに、外より来たる人の、「今、まるりつる道に、紅
引いたようである

【B】 いづこにも劣らじものをわが宿の世をあきはつるけしきはかりは
劣らないだろうに 家 飽き果てて住む 秋の終わりの

【日本古典文学全集『更級日記』より】

注1 花橘 香り高い白い花をつける木。ここではその花のこと
注2 足柄 地名

1 花橘の、いと白く散りたる とありますが、それを見て作者が連
想したものは何ですか。本文中から抜き出しなさい。

2 【A】の歌の季節を漢字一字で答えなさい。

3 錦をひけるやうなる とありますが、これはどこの風景のことを
言っていますか。次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 四方の山辺 イ まるりつる道
ウ おもしろき所 エ わが宿

4 まるりつる を現代の仮名遣いに改めて、ひらがなで答えなさい。

5 【B】の歌の句切れを答えなさい。

五 国語科の授業で、「日本語の使い手として」というテーマで、討論会を
行うことになりました。あなたは「外来語について意見を述べます。下
の【資料】をもとに、あなたの意見をあとの【条件】に従って書きなさ
い。

【条件】

1 二段落構成とし、各段落の内容は次の2、3のとおりとする。

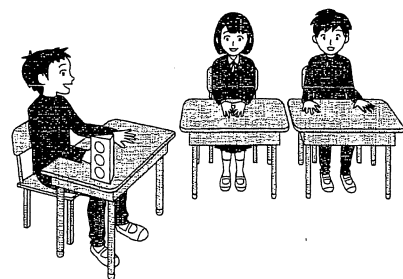
2 第一段落は、あなたの意見を書く。

3 第二段落は、その意見の根拠を、【資料】をもとに書く。ただし、
【資料】は一部の使用でもよい。

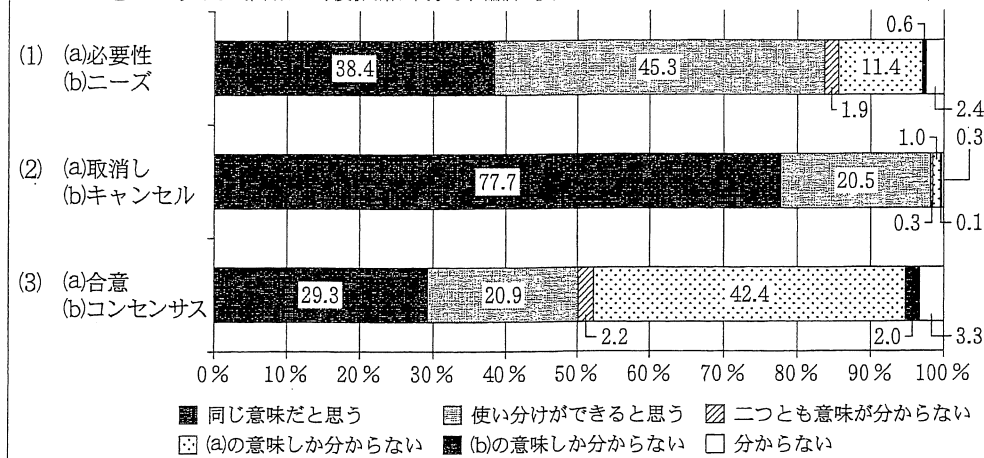
4 原稿用紙の使い方に従い、百八十字以上、二百二十字以内で書く。

5 グラフの数値を書く場合は下の例のように書く。

例 12.3
%



【資料】 あなたは、(a)と(b)は同じ意味の言葉だと思いますか。それとも、使い分けのできる言葉だ
と思いますか。(「平成25年度『国語に関する世論調査』(文化庁文化語部国語課)」より)



(参考) 辞書の記載内容

- (1) (a)必要性……必要であること。また、その度合い。
(b)ニーズ……必要。要求。需要。
(2) (a)取消し……書いたり述べたりしたことや、いったん決まったことを打ち消して、無かったことにすること。
(b)キャンセル……取り消すこと。契約や予約を破棄すること。解約。
(3) (a)合意……意志が一致すること。
(b)コンセンサス……意見の一致。合意。